

2012年

5月号



青雲会会報

平成24年度

青雲会総会のご案内

講演会のテーマ

『国際社会と日本』

日時

平成24年7月14日(土) 午前10:30開会

10:30-12:00 総会 講演

12:00-14:00 懇親パーティー

会費

6,000円(卒業後5年以内 2,000円 学生 1,000円)

ご出席の方は、会費の前納をもって
申込みとさせていただきます。
同封の払込み用紙をご利用ください。
払込み期限 6月22日(金) [必着]

場所

大阪弥生会館

大阪市北区芝田町2-4-53
TEL 06-6373-1841

やぶ なか み と じ

講師 藪中 三十二氏 (18期)

[主な経歴]

1969年4月 大阪大学法学部中退(外務省入省)
1973年5月 米コーネル大学卒業
1987年11月 北米局北二課長
2002年12月 アジア大洋州局長
2008年1月 事務次官
2010年8月 外務省退職 同顧問
2010年10月 (株)野村総合研究所顧問
立命館大学教授

平成23年度 青雲会行事報告

平成23年度の青雲会行事の概要は下記のとおりです。

1. 総会

平成23年7月9日(土)大阪大学会館にて開催いたしました。詳細については、4ページの総会報告をご参照ください。

2. 留学生への奨学金付与

本年度は、張 明君(中国出身)に決定いたしました。
なお、張君のことについては、9ページの座談会をご覧ください。

3. 懸賞論文

今年は31名から応募があり、以下のとおり決定しました。

1席 法4 醍醐 龍馬 君

「マリアルス号事件をめぐる国際仲裁裁判—日本初勝訴への道」

2席 法4 常盤 成紀 君

「親密圏の現代的意義」

2席 公4 小寺 彩香 君

「国家の一方的行為—「一方的宣言に関する指針」と一方的約束」

佳作 法4 原 麻梨子 君 外1名

「一票の較差」問題を哲学する」

佳作 公4 木村 彰秀 君

「創業促進政策は開業率を押し上げるのか—政策効果の実証分析を通して—」

佳作 公3 前川 真理奈 君 外3名

「関西圏における空港経営と航空旅客の空港選択—関西国際空港を中心に—」

佳作 法3 小西 朝歌 君

「コーポレートガバナンス—機関設計によって企業統治は守られるか—」

新人賞 法1 竹添 将人 君 外3名

「臓器移植法改正の是非について」

4. 幹事会

4月27日、6月15日、7月4日、9月6日、12月9日、2月27日に開催しました。参加人員は毎回30名前後の幹事が出席し、青雲会の運営方針を決定しています。

5. 卒業修了祝賀会

今年も準会員であった学生を正会員として迎える青雲会主催の記念パーティーを3月22日に開催しました。詳細については、4ページの報告をご覧ください。 以上

■ 青雲会会長 ご挨拶



会長 三木 秀夫
(30期 弁護士)

青雲会のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。日頃より青雲会に対しまして多くのご支援、ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

早いもので、会長職を受けてから1年が過ぎました。この1年間は、会員の皆様方をはじめ、副会長や幹事の皆様方に支えられ、何とかやってこれました。昨年7月の総会は、新しい姿となった大阪大学会館で賑やかに開催できました(詳細については総会報告をご覧ください)。学生懸賞論文の募集も31件という多数の応募を受け、このうち優秀な8名の方々に卒業式後の祝賀会で表彰及び賞金授与を行いました。留学生への奨学金付与も行いました。

また、青雲塾は極めて活発に、いつもユニークな企画で開かれていますし、囲碁やゴルフなどの同好会も活発です。幹事会もほぼ2ヶ月に1回開催しています。東京支部と名古屋支部の総会も開かれたと伺っています。残念ながら東京支部総会にはお招きを受けながら出席できませんでした。野村副会長に出で頂きました。

今年も7月14日に総会と懇親会を開きます。元外務事務次官の藪中三十二氏(新制18期)をお招きして日本の現代外交についてお話をお聞きいたします。ぜひ、多くの方々にご参加下さいますようお願いいたします。

大阪大学法学部はというと、本年3月に、国際公共政策学科から初めての卒業生63名を出し、正会員としてお迎えいたしました。法学科、大学院法学研究科、高等司法研究科も諸先生方のご努力で益々発展してきています。

今年、今後の青雲会のあり方の見直しなどにも力を注ぎつつ、ホームページの充実や同期会開催支援システムの確立など、新しい施策にも努めて参りますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

■ 青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長

竹中 浩

この4月から、大阪大学大学院法学研究科長・大阪大学法学部長を務めさせていただくことになりました。政治や経済、社会の状況が厳しさを増すなかで、伝統ある法学研究科・法学部の運営を担うことになり、身の引きしる思いです。学生相互の絆を強めるとともに、学生とOB・OGの間の情報の流れを円滑にすることを常に念頭に置きながら、任に当たってまいりたいと存じます。

青雲会のみなさまのお力添えによりまして、法学研究科・法学部とも、着実に発展を続けております。法学部創設60周年の年である平成20年に新生の受入れを開始した国際公共政策学科も、この3月に最初の卒業生を送り出しました。この機会にカリキュラムを見直し、国際的に通用する人材を育成するために、教育の質をさらに向上させるべく努めていきたいと考えております。厳しい雇用情勢のもとで、ともすれば内向きになりがちな法学部生の目を世界に向けさせるために、昨年度からオーストラリアでの短期研修も始めました。

法学研究科・法学部の教育を充実させるため、今後、青雲会のみなさまのお力をお借りしなければならないことが多々あるかと存じます。これまでも増して、ご支援のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

東日本大震災義援金の報告

昨年3月11日の東日本大震災発生から1年以上が経過しましたが、復興は未だ前途遠慮です。

青雲会として被災された方々の一日も早い復興を願い、被災者義援金を募集しましたところ103名の会員皆様から総額304,000円の義援金に達し、9月5日に全額を日本赤十字社に送金いたしました。

皆様から寄せられた温かい義援金は日本赤十字社を通じ被災地の復興支援に役立つものと感謝申し上げます。

国際公共政策学科長 ご挨拶



国際公共政策学科長
星野 俊也

法学部国際公共政策学科は昨年度に完成年度を迎え、初めて4年生を社会に送り出しました。第一期生たちにとっては新しい挑戦の数々を乗り越えての卒業だったと思いますが、幸い、それぞれが自分の目指した道に巣立っていく姿はとでも頼もしく、うれしい限りでした。学年の総代になったもの、希望の就職を果たしたもの、法科大学院に進学したもの、そしてもちろん国際公共政策研究科に進学してくれた優秀な第一期生たちは、後輩たちに立派な模範を示してくれました。これからも国際公共政策学科の学生たちが権威ある阪大法学部の長き伝統と、本学科の新しい伝統とを誇りに思い、まさに青雲の志を持って社会の有用なリーダーとして羽ばたいていってくれることに大きな期待を持っています。

私は、本学法学部で特に国際公共政策学科の学生たちには「5つのK」を胸に抱いて勉学に励んでもらいたいと話しています。それらは、課題解決型の発想、国際的なセンス、公共のマインド、行動力、そして基礎の充実です。政策学はとかく応用の学問ととらえられがちですが、それはしっかりとした基礎があってこそ、生きてきます。法学部で基礎から専門への足場をぜひ固めてください。私の専門は国際関係論。外交の実務と国際政治の理論とを「国際公共政策」をキーワードに橋渡しをし、また、意欲のある多くの学生の皆さんを国際的な政策セクターに送り込み、私たちの英知を政策に結び付けていく醍醐味を分かち合いたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。

私は、本学法学部で特に国際公共政策学科の学生たちには「5つのK」を胸に抱いて勉学に励んでもらいたいと話しています。それらは、課題解決型の発想、国際的なセンス、公共のマインド、行動力、そして基礎の充実です。政策学はとかく応用の学問ととらえられがちですが、それはしっかりとした基礎があってこそ、生きてきます。法学部で基礎から専門への足場をぜひ固めてください。私の専門は国際関係論。外交の実務と国際政治の理論とを「国際公共政策」をキーワードに橋渡しをし、また、意欲のある多くの学生の皆さんを国際的な政策セクターに送り込み、私たちの英知を政策に結び付けていく醍醐味を分かち合いたいと思っています。今後ともよろしく願い申し上げます。

高等司法研究科の近況



高等司法研究科長
谷口 勢津夫

今年4月に再任され更に2年間、研究科長を務めることになりました。皆様には、引き続き御指導、御鞭撻の程、何卒よろしく願い申し上げます。

さて、法科大学院を取り巻く状況はますます厳しいものとなってきておりますが、そのような中、高等司法研究科は、皆様の御支援を受け、「教育の質」を着実に向上させ成果を上げてまいりました。ただ、司法試験の結果に関しては、未だにいわゆる「隔年現象」がみられます。今後2年間で是非ともこの状況から脱し安定的に結果を伸ばしていく方向に舵を切っていきたいと考えております。

研究科運営は、これまでどおり、対内的には学生第一主義、対外的には、特に法学研究科及び知的財産センターとの関係では連携強化、を旨としていきたいと考えております。学生一人ひとりをスポイルすることなく各自の自主的・自律的学修を支援し、また、外部との連携強化によって教職員の働き甲斐を高め負担の適正化を進めていくような運営に努めてまいります。そうすることによって、来年で10年目を迎える高等司法研究科の運営を安定軌道に乗せたいと考えております。

大阪大学法曹会よりのお知らせ

1. 2011年10月24日 恒例の合格者祝賀会を開催いたしました。

本年度の合格者は65名で昨年度より減少いたしました。活気ある若者が多く就活の話題でもちきりでした。一般会員のご出席は47名でした。さらなる会員さまのご出席をお待ち申し上げます。

2. 高等司法後援基金に100万円寄付いたしました。

今年も後援基金に100万円寄付いたしました。後援基金を通じて学生に対する具体的支援を行ってまいります。1年間の法曹会収入の50%を超える寄付額になりますので会費支払いにご協力お願い申し上げます。

3. 就活懇談会を開催いたしました。

就活対策の一助として就活懇談会を11月4日大阪弁護士会館にて開催いたしました。福田事務局長をリーダーとしてこの2~3年に就職された先輩弁護士6名と合格者18名とで体験談を中心とした懇談会となりました。好評につき今後定例で行ってまいります。

4. 高等司法後援基金の体制が変わりました。

2011年9月より指導内容を強化するため企画・指導は大学側、事務部門は法曹会が担当することになりました。司法試験制度の見直しが検討されておるなか大学法曹会協力して柔軟なる対応をとってゆきたいと思っております。

5. 大阪大学法曹会 役員・組織 (2012年4月1日現在)

| | | | |
|----|------|-------|-------|
| 役員 | 会長 | 的場 悠紀 | (12期) |
| | 副会長 | 野村 務 | (27期) |
| | 副会長 | 中川 清孝 | (24期) |
| | 事務局長 | 福田 健次 | (36期) |
| | 監査 | 三木 秀夫 | (36期) |
| | 監査 | 三成 賢次 | (大学) |

※この期は司法修習期です。

事務局 堂島法律事務所 06-6201-0444
事務局分室 06-6850-5198(青雲会内)

■ 平成23年度 総会報告

日 時：平成23年7月9日(土) 午前10:30開会
 10:30-12:00 総会・講演
 12:00-14:00 懇親パーティー
 会 場：大阪大学会館(旧イ号館)
 講 師：三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 取締役会長
 住友信託銀行株式会社 取締役会長兼社長(当時)
つね かげ ひとし
常陰 均氏 (25期)
 テーマ：「金融の変遷と信託の役割」



平成23年度の総会は、新装なった大阪大学会館において開催いたしました。大阪大学会館は、大阪大学が今年創立80周年を迎えるに当たり、「大阪の顔」としての大阪大学を作り上げるため旧制浪速高等学校の校舎イ号館をリニューアルしたものです。これまでの大阪大学の歴史を継承し、未来に亘って大阪大学のシンボルとなるべき建物と言えましょう。この会館の2階にある大阪大学講堂で約100名の会員の皆様にご出席いただき、盛会のうち総会を終えることが出来ました。

講演では、三井住友トラスト・グループの住友信託銀行(株)取締役会長兼社長常陰均氏(25期)から「金融の変遷と信託の役割」と題して、昭和後期から平成の金融の変遷について、分かり易くお話しいただきました。特に、不良債権処理のような問題は、先送りすればするほど解決策の選択肢が狭まるため、早め早めの対応が重要であること、リーマンショックのようにリスクの全体像が把握しにくい問題についても、問題を避けずに正面から直視して取り組むことが必要であること等、ご経験に裏打ちされた非常に示唆に富むお話をいただきました。

懇親パーティーは1階のアセンブリー・ホールで開催。今年は大阪大学の応援団の演舞でパーティーの雰囲気が大いに盛り上がりました。戸塚名誉教授をはじめ7名の先生方にもご臨席いただき、代表して戸塚名誉教授のご挨拶で、講演の常陰講師のゼミ教官としてのお話をいただき、続いて、青雲会懸賞論文受賞者紹介、留学生奨学金授与者紹介が行われ、パワーポイントを使用して学生のブラジル海外研修報告と東日本大震災のボランティア活動報告が行われました。

■ 卒業修了祝賀会

3月22日、卒業式があり、法学部法学科より177名、国際公共政策学科より63名(法学部計240名)、法学研究科より38名の合計278名が卒業されました。

卒業修了祝賀会は、国際公共政策学科から初めての卒業生を迎えて、中尾法学部長の祝辞と乾杯で開催されました。

そして星野国際公共政策学科長が挨拶されて懇談に入りました。

その後青雲会懸賞論文の入賞者表彰を行いました。三木会長から1席の醍醐氏(法4)を始め2席2名、佳作4名、新人賞1名の合計8名が表彰され、卒業生の皆さんから祝福を受けられました。醍醐氏は昨年に引き続き1席を受賞されました。

この会は、青雲会が主催ですが、当日の運営は法律相談部・法学研究会に所属する学生が行い、今年はビンゴゲームで盛り上がりました。当日の飲み物(ビール)はサントリーの子会社ダイナックさんにご寄贈いただきました。お礼申し上げます。

最後に先生方を代表して、高田篤先生が卒業生に贈る言葉を力強く述べられました。

当日の参加者は先生方を除き150名の沢山の参加となり、記念写真の撮影が3つに分かれることになりました。



青雲会 役員名簿

任期23年4月1日～25年3月31日

| 役職 | 氏名 | 期 | 担当 |
|---------|--------|-------|--------------|
| 名誉会長 | 竹中 浩 | | |
| 会長 | 三木 秀夫 | 新制30期 | |
| 幹事長 | 三輪 省三 | 旧制1期 | |
| 副会長 | 山本 茂伸 | 新制22期 | 総会*就職活動 |
| 副会長 | 松井 繁幸 | 新制23期 | 青雲塾 |
| 副会長 | 松本 克己 | 新制26期 | 就職活動 |
| 副会長 | 西畑 一哉 | 新制27期 | 懸賞論文*就職活動 |
| 副会長 | 野村 史郎 | 新制27期 | 総務*総会 |
| 副会長 | 西井 秀行 | 新制36期 | 若手活性化*ホームページ |
| 副会長 | 堀木 由紀 | 新制46期 | 会報*懸賞論文 |
| 副会長 | 里内 友貴子 | 新制51期 | 女性活性化*留学生奨学生 |
| 事務局 | 黒田 嘉次郎 | 新制18期 | |
| 懸賞論文審査 | 川上 良 | 新制39期 | 懸賞論文 |
| ホームページ監 | 鶴飼 康史 | 新制39期 | ホームページ |

平成23年度決算報告と平成24年度予算 概要

(単位:千円)

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|-------|--------------|--------------|--------|--------------|--------------|
| 項目 | 平成23年度 決算 | 平成24年度 予算 | 項目 | 平成23年度 決算 | 平成24年度 予算 |
| 会費収入 | 6,345 | 6,440 | 総会費 | 507 | 540 |
| 懇親会収入 | 507 | 540 | 会報費 | 2,040 | 2,120 |
| その他収入 | 378 | 350 | 留学生奨学金 | 600 | 600 |
| | | | ローヤリング | 500 | 500 |
| | | | 司法基金援助 | 500 | 500 |
| | | | ソフト維持費 | 378 | 380 |
| | | | 懸賞論文 | 400 | 270 |
| | | | 支部助成金 | 370 | 420 |
| | | | 一般助成金 | 268 | 280 |
| | | | 人件費 | 1,022 | 1,030 |
| 収入計 | 7,230 | 7,330 | その他経費 | 1,142 | 1,600 |
| | | | 支出計 | 7,727 | 7,740 |
| 収支差額 | | | | △497 | △410 |
| 前期繰越金 | | | | 5,536 | 5,039 |
| 次期繰越金 | | | | 5,039 | 4,629 |

※本案は総会でご審議いただきます。

同期会の
開催報告

青雲会は皆様方の同期会の開催を支援しています。

- ・ 入学同期の会員情報の基礎データを提供いたします。
- ・ 同期会幹事の方は事務局にご一報ください。
- ・ 同期会の開催案内と開催結果報告をHPに掲載します。
- ・ 新判明会員情報を事務局にご連絡願います。

同期会開催報告



新制11期同期会

平成23年度新制11期同期会は5月12日～13日の一泊二日の行程で東京で行いました。参加者24名。

12日は森鷗外「舞姫」執筆の「舞姫の間」で宴会。

翌日は浅草から向島へ散策。建設途上のスカイツリーを眺めながら隅田川を水上バスで遊覧。

両国相撲茶屋にて会食解散。楽しく愉快的な二日間を過ごしました。

次回は来年5月10日～11日の行程で阪神在住の同期の皆さんが幹事役で淡路島で行います。(文責)11期 松野

新制12期同期会

平成24年3月31日 懐かしの母校(豊中キャンパス)にて新制12期(1960年入学)の同期会が開催された。午後4時に石橋駅に近い、総合学術博物館に19名が集合し、全員そろって旧イ号館の学生会館に移動した。セミナー室で法学部、青雲会等の現況を青雲会事務局から聞き、改装された館内を見学、学生時代の旧イ号館講堂の面影を散見することができた。その後キャンパスの青雲石、同期の故疋田画伯の壁画等を鑑賞した後、法学部の模擬法廷を訪問。出席者の中には、現役の弁護士、元判事等司法のベテランが多数参加していたので、法廷の説明や裁判の興味深い話等を聴くことができた。再度キャンパス見学を経て博物館隣接のカフェ「坂」に戻り、午後6時から懇親会を開催した。

午後8時、大阪高等学校全寮歌「東天紅…」を全員で唄い、2年後の再会を約し、別れを惜しみつつ閉会となった。(文責)12期 山田



新制14期同期会

4月7日土曜日、4年間通った懐かしの石橋/阪大坂の上り口にある「阪大美術博物館」前が集合場所。

大学キャンパス見学と懇親会をセットに予想を大きく上回る24名が集った。先ず青雲会事務局の案内で、すっかり整備された面目を一新した旧イ号館(教養時代の学び舎)、法系学舎を次々に見て回った。模擬法廷では丁度新入生向けの公開法廷が行われ、「最近の学生はよく勉強しているなー」と感心しきり。木造平屋校舎の往時と比べて立派なになった施設に羨ましさも聞かれた。夜は中之島の阪大センター交流サロンに場所を移して懇親会。一人ずつ卒業以来の来し方人生を報告し、語り合った。その後飲み足りない、語りたらない面々は二次会に流れ、又の再会を約した次第。(文責)14期 砂山



昭和44年入学全国同期同窓会

昭和44年入学 全国同期同窓会 開催!!

平成23年10月29日(土)午後1時から梅田ハービスプラザにあるガーデンシティ倶楽部大阪において昭和44年(1969年)入学全国同期同窓会が開催されました。参加者は48名でした。

我々入学の1969年は70年安保前夜で世の中は揺れ動いており、授業が始まったのは確か11月頃という異例の大学生活、青春でした。

このたび、みんな還暦世代となりましたが、関西、関東の世話人のみなさんのご尽力で、不自由な体を押して東京から駆けつけてくれた同期も含めて関西、関東合計48名という多数が集まることができ、近況、思い出話を語り合い、次回再会を約束して、2次会、3次会へと流れていきました。(文責)24期 森信

昭和45年入学同期会

還暦迎え37年振りに32名相集う!(昭和45年入学生)

平成23年10月22日、大阪リーガロイヤルホテルにて卒業以来、37年振りに初めての同窓会を開催しました。会場は同期の中林君が常務で勤務するリーガロイヤルホテル。会費、サービスはもとより至れり尽くせりのお手配をお願いした。なにせ卒業後初めての同窓会のこと、準備・運営のエンジンとなる幹事団を4月に発足。

当日は、当時の教養部クラス担任教官の伊藤公一先生をお招きし華を添えて頂いた(堺先生、藤谷先生は世界されています)。37年振りのこと、歳月は人を待たず、面影を頼りにお互い確認しあい、懐かしさに思わず握手の風景も。日程合わず参加できなかった24名の方からのメッセージを紹介。山本君の名司会で進行、お互いの近況報告交わすうちに大いに盛り上

がり、学生時代にタイムスリップ、時間のたつのも忘れるなか、高橋健介君のエールで旧制大高寮歌斉唱。24年秋の再会を誓った。(文責)22期 南





昭和47年入学同期会

12月23日午後4時半ころから、大阪ヒルトンホテル地下2階の「たちばな」という料理店で、昭和47年入学の大学同期会(24期が中心)を行いました。

出席者は、脇谷、安田、小田、室木、楠、舟引、宮崎直彦、細井の計8名で、午後7時半ころから、全員でカラオケボックスに流れて、終了は9時半ころになりました。

来年(2012年)は、12月22日(土)午後4時に、また梅田付近に集まることになりましたが、少し規模を拡大して、全員が還暦を迎える再来年ころに、できれば全体の会を開けないかということになりました。

昭和50年入学同期会

去る10月22日に1975年(昭和50年)入学の同期会を開催したところ、40名弱の参加を得て大変盛り上がりしました。

メーリングリストを立ち上げて連絡インフラを整備していきました。当初はメールアドレス判明者は少なかったのですが、連絡をしていくうちに「誰そのアドレスは〇〇だよ。」という連絡を頂くようになり、少しずつ広がっていきました。100名近くのメールアドレスが判明し、完全とは言えませんが、かなりの同期に連絡が取れるようになりました。

当日はすっかり綺麗に変わった阪大キャンパスの見学ツアーに始まり、生協の食堂を借りての懇親会、石橋の居酒屋での二次会と盛り沢山のスケジュール。

懇親会ではタイマー付き1分間自己紹介を実施し、卒業後36年間で話す企画で大変盛り上がりしました。是非今後は定期的に同期会を開催しようということを決めて解散となりました。(文責)27期 野村



青雲塾で新しい自分と出会う!

青雲塾担当
松井繁幸(23期)

青雲会会員の他、会員の紹介のあった人もご参加大歓迎です。講師の自薦・他薦、企画の持ち込みも。事務局から案内をお送りしますので、是非、ご連絡ください。次回は6月21日(木)午後7時から予定しています。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/>

なお、昨年度の開催内容は次のとおりです。

2011年

6月5日(日)「万葉を歩く <<シリーズ(第2回) 西ノ京篇>>」
森内 賢一 氏(18期)

★暑くもなく、さわやかな風の中、西大寺から菅原天満宮、垂仁天皇陵、唐招提寺、薬師寺と、万葉歌碑やゆかりの地を、4時間半、6km以上の行程を歩きました。講師の巧みな解説で古代の人と自然が鮮やかによみがえってきます。

10月6日(木)「被災地から生レポート-東日本大震災 支援活動報告会-」 ACTION students' project for 3.11
原田 亮 / 神田 大樹 / 正村 智子の3氏(大阪大学学生)

★三木会長「後輩たちが、このような素晴らしい活動を、しかも熱心に行われていることを知り、自分もがんばらないと、思われた方々が、私自身も含めて、多くいたと思います。ぜひとも、今後とも、社会のために活躍されるよう、陰に陽に、応援したいと思えます。」(ACTIONの活動にエールを送って)



▲「東日本大震災 支援活動 報告会」で被災地復興を 祈念して全員集合!(備後町クラブ)

2012年

1月13日(金)「日本人と刀について」 山本 茂伸 氏(22期)

★当日は自身のコレクションから選ばれた太刀、刀、短刀を展示しての、文字通りの真剣勝負。詳細なレジュメを用意しての気合のはいった講義でした。普段、滅多に見ることのない日本刀の真剣に触れることが出来、貴重な経験が出来たと、ご参加の皆さん。

3月27日(火)「経絡(けいらく)ヨガ入門

一気の巡りを整えて 心も体もリフレッシュ!」

松田 靖子 氏(ヨガ エアロピクス パーソナルトレーナー)

★今回は、ヨガ…ということで、動きやすいように和室に舞台を移しました。「こんなこと、生まれて初めて…」という声も。ヨガは初めてという方も多かったかと思いますが、奥が深いヨガのよい水先案内人をしていただいた松田さんに感謝です。

東京支部だより

東京支部長 杉政 静夫(21期)



東京支部 連絡先

〒160-0004
東京都新宿区四谷1-9
天龍ビル5F
杉政静夫法律事務所内
TEL 03-3355-6575
FAX 03-3355-6576

1.青雲会東京支部総会

去る1月13日(金)に青雲会東京支部の総会が日本教育会館内の「喜山会館」で開催されました。今回は前年度の活動報告や会計報告に加えて、5年間支部長として活躍された13期の藤淵義信氏が退任され、新支部長に21期の杉政静夫が就任。また9年間幹事長として活躍された11期の高松紀男氏が退任され、24期の鈴木浩氏が就任したことを披露する会となりました。

本部からは野村副会長、法学部の林智良教授を来賓にお迎えし、更に講演会やゴルフ会を共同開催している東京待兼会の吉田事務局長等からも来賓祝辞を頂きました。総会の後、懇親会に移行し、6期の桑田勤氏の乾杯の挨拶に始まり、途中10期の矢倉久泰氏による子供大学の取り組みや、21期の岡部修二氏による新国立劇場の案内などのお話を交え、会員相互の懇親を深めることが出来ました。

最後に1月7日に合同コンペで優勝した10期の小浜正幸氏の中締めで、次回も更に輪を広げて集まろうと誓って終了しました。

2.とっておきの話「青雲流る」第2号刊行準備

働き盛りのときの秘話・逸話を冊子にしよう!と2002年の東京支部会報「青雲」創刊10号記念事業として「青雲流る」第1号が発行されて10年が経ちました。第1号の内容はいずれも戦後史や社史の空白を埋める貴重な裏話やエピソードで、青雲会東京支部メンバーの各界での活躍ぶりが、生々しく伝わってきました。

そこで第1号から10年、青雲第20号の記念に「青雲流る」第2号を発行することにしました。東京支部のメンバーから原稿を募集しますので是非応募願います。具体的には「青雲」21号(2012年9月頃発行予定)で案内しますのでご準備をお願いします。

名古屋支部だより

名古屋支部長 平野 修義(10期)



名古屋支部 連絡先

〒464-0072
名古屋市千種区振甫町3-26
平野 修義
TEL&FAX 052-711-1008

当年も経済学部同窓会と協力して「名古屋待兼会」を運営いたしました。

2、4、6、9月の例会ではそれぞれ「愛知県議会議員選挙情勢」「同選挙結果分析」「和太鼓ものがたり」「源氏物語」のテーマで同窓生の30分ショートスピーチがあり、その後約2時間酒食、懇談を楽しみました。

11月19日の総会には、現法学研究科科長、法学部長の竹中浩先生に御出席頂き、本学が創立80周年を迎える中、新しい時代に対応して社会から孤立する事のないよう社学連携を進めるため、同窓生の協力を要望されました。(写真)

又総会において、当会会長の法37年卒の秋田量正さんが2年の任期を終え、経38年卒の井上悦次さんに交替することが決まりました。

年2回、春秋のゴルフ同好会も開催致しました。

本年も同様の行事を実施致しますので、東海地方同窓生のご参加をお待ちしております。

囲碁同好会へのお誘い

囲碁を趣味とする者の集まりです。例会は、毎月第2土曜日の午後1時から午後5時ころまで、青雲会交流センター(中の島セキスイビル北側、法曹ビル2階)で行っています。手合いは持ち点によるハンディ制で、技倆に応じて楽しむことができます。夏の大会、秋の現役囲碁部員との交流会、正月の全阪大囲碁大会への参加などのイベントもあります。ご参加をお待ちしております。



お問い合わせは

幹事 山口 勝之(13期)
TEL:06-6384-4747まで

「白球を追って」青雲会 ゴルフコンペ

「青雲会」ゴルフコンペ 年2回開催(5月・11月)ぜひご参加を(詳細は事務局へ)

20年・30年ぶりに懐かしい同窓のメンバーが顔を合わせ、冗談を交わしながら、お互いの健康を喜ぶ会です。

昨年11月22日の第57回大会は、8期の加藤芳一氏が優勝されました。

新しいメンバーの多数のご参加をお願いします。

参加ご希望の方は、
「青雲会」事務局
(06-6850-5198)
までご一報ください。



第12期 青雲会奨学生（法学部留学生） 座談会

平成23年度の青雲会奨学生は、
中国出身の(張 明)君です。
三木会長からお話を伺います。(里内副会長同席)

三木 阪大法学部の同窓会である青雲会は、海外からの留学生を少しでも支援しようと、12年前から奨学金支給制度を実施しています。今年是中国出身の張 明君です。

中国のどちらの出身ですか。

張 無錫(むしゃく)出身です。大運河や太湖の広がる水の豊かな町で、工業が発展しています。近年日本企業も多数進出しています。「無錫旅情」の歌でなじみのある方もおられるかもしれません。

三木 そこでの生活、ご家族の状況などをお話してください。

張 父は地元のTV局の運転手をしており、母は企業内で日本語の通訳をしています。数年前から母の勤務先が日本企業と取引を始めたことから、母は日本語を勉強するようになりました。

三木 どういうことで、日本の大阪大学に留学されるようになったのですか。

張 無錫では日本食や日本アニメ・ゲームのお店が多く日本文化に触れることが多かったこと、また母も日本語を勉強していたことから、私自身も日本に興味を持ちました。そして歌手の大塚愛さんのファンでしたので、彼女の出身地大阪に留学したいと思うようになりました。

三木 大学では何を専門に研究されていますか。また、どのような大学生活をおくれましたか。

張 大阪大学法学部国際公共政策学科の1期生として国際公法を中心に勉強しました。2回生の時に受講した民法の授業は大変おもしろく、いい成績を修めることができました。3回生の時には1年間、大阪大学交換留学生としてデンマークのコペンハーゲン大学で学ぶ機会をいただき、視野をアジアから世界に広げることができました。4回生の時は、大学院の受験も控えていたことから大学図



書館に通い、様々な論文を読んで勉強する日々を過ごしました。学外でも、2回生の頃から継続して難民ボランティアの活動をしています。西天満に長く住んでおり、付近のコンビニやスターバックスでアルバイトをしていたので、三木会長にお会いしたこともあったかもしれません。

三木 卒業後の進路を教えてください。また、将来はどのような仕事に就こうと考えておられますか。

張 卒業後は東京大学公共政策大学院において、さらに国際公法の研究をすすめていく予定です。その後はヨーロッパでLLM(法学修士)を取得し、いずれオランダのハーグにある国際司法裁判所に入所したいと考えています。

三木 本日はお忙しいところに来て頂いて有難うございました。青雲会としては、今後とも勉強されてご活躍されることを願っています。今年の総会は7月14日(土)に開催されますので、是非ご出席ください。

張 是非出席させていただきます。



「無錫 市街地」



「無錫 運河」

活躍する卒業生 I

「終着駅のない 鉄道の旅」

明石土地建物(株)代表取締役社長
中濱 文旦 (21期)

これまで数多くの鉄道の旅を単独であるいは仲間たちとしてきました。鉄道の旅と言っても只見線のような車窓絶景路線の旅、SLやまぐち号など特別な列車に乗車の旅、路線の全線乗りつくりの旅、鉄道写真撮影の旅、スイッチバックなど鉄道名所を訪ねる旅、鉄道博物館など見学の旅、木造駅舎・秘境駅など駅を訪ねる旅、廃線跡探訪の旅などさまざまです。私の場合はたいていそのいくつかを組み合わせた旅になります。

全国に数ある魅力的鉄道路線から5つを選ぶのは至難の業ですが、私のお気に入り、釧路湿原からオホーツク海まで車窓の変化がすばらしい釧網本線、トロッコ列車が深い溪谷に沿って走る黒部峡谷鉄道、SLがほぼ毎日走る本線と山岳路線がある大井川鐵道、最後の清流、四万十川に沿って走る予土線、球磨川に沿って走る川線と山岳部を走る山線が対照的な肥薩線です。

私の鉄道旅では事前に綿密な行程表を作成します。「豊肥本線と南阿蘇鉄道に乗る」など旅のテーマが決まると鉄道に関連した情報のみならず、沿線の名所・旧跡、観光施設、温泉、郷土料理などを調べ上げ、乗る列車、下車駅や訪問地、食事場所、宿などを決定します。調べた情報はファイルにして旅に持参します。旅から帰ると、写真、資料の整理をして随時、紀行文等を作成します。鉄道旅では事前、本番、事後と三度愉しみますが、これで十分、おしまいということはありません。

昨年9月、木次線の奥出雲おろち号乗車の後、温泉津温泉泊、翌日に山陰本線のみすゞ潮



「大井川鐵道・奥大井湖上駅にて」

彩号に乗る旅で、台風のため2日目の行程を実行できず帰宅しましたが、そんなことも楽しんで、頭の中ではまた新しい旅が始まります。

K社に在職中、任意の同好会であるK鉄道倶楽部を鉄道好きの社員18名で立ち上げて17年が経ちます(現会員39名)。私は子どもの頃から地理、歴史が大好きで鉄道の旅が好きになりましたが、鉄道倶楽部創設後、鉄道紀行を書くようになってからさらに鉄道の奥深い魅力の虜になってしまったようです。選択定年制によりK社を離れてからも倶楽部には在籍し、5年前から倶楽部代表を務めています。

鉄道倶楽部では年4~5回、懇親会や鉄道乗車会・車庫見学会などのイベントを行い、ホームページの運営も行っています。一昨年には創立15周年の記念行事と記念冊子の刊行を行いました。これからも鉄道旅と倶楽部の活動を通じて鉄道と鉄道旅の魅力をもっと伝えていけたらと思っています。





「大学時代の体験を元に 遺言書キットを企画開発」

コクヨS&T株式会社
コンシューママーケティング事業部
岸田 裕子 (51期)

「お客様のお困り事を解決する何か新しいものを考える」というプロジェクトに参加することになったのは、阪大を卒業し、コクヨに入社してから4年目のことでした。

なかなか良いアイデアが出ずに困っていたときに、思い出したのが阪大時代の体験でした。

私は1回生の時から、法律相談のボランティアを行う「法律相談部」に所属していたのですが、活動を行う中で、何度か「遺言書の書き方を教えてほしい」という相談を受けたことがありました。「遺言書の相談を受けたときは、公証役場か弁護士会の連絡先をお伝えする」ということになっていたため、相談者の方にそのように伝えようと、がっかりした表情で「ちょっと自分で書いてみようかなと思ったから相談に来たのに」と言われることが数回ありました。

そんな時に、大学に民法の授業で遺言について学ぶ機会がありました。民法961条では「満15歳に達した者は、遺言することができる。」と定められており、松川先生が「きみたちもう15歳越えてるんやから、書けるんやで。自筆証書遺言でも書いてみたら」とおっしゃったのです。

今後の法律相談活動の参考になるかもしれないと思い、私はさっそく遺言書を書いてみることにしました。本などで遺言の書き方を調べるところでも手間がかかりましたが、思った以上に悩んだのが「遺言書をどんな紙に書けばいいのか、どんな封筒に入れればいいのか」ということでした。普段使っている便箋と封筒では遺言書らしくない気

がして、結局悩んでいるうちに面倒になり、諦めてしまいました。

そんな体験を元に、「やってみようという思いがあるのに形にできないのはもったいない」、「専門家に相談するのはとても良いことだけど、それができない人でも気軽に一歩を踏み出せる商品を作りたい」と考え企画開発したのが、2009年に発売した「遺言書キット」です。初めての方でも遺言書完成までたどりつける商品として、テレビ「ガイアの夜明け」などでも取り上げられ、累計8万セットを出荷するヒット商品となりました。その後、さらにヒアリングを続けて商品化した「エンディングノート<もしもの時に役立つノート>」は「生きているときにも備忘録として役立つエンディングノート」として好評をいただき、出荷数は20万冊を超えています。2012年2月にはシリーズ商品である、「おつきあいノート<人のおつきあいを大事にするノート>」も発売させていただきました。

阪大で過ごした学生時代に学んだことや様々な体験が、社会人になってから役立っていると、日々感じています。



一シリーズ ◆キャンパス案内 (Vol.3)

青雲会は昭和29年3月に発足し、今年で58年目を迎えます。再来年は60周年の節目を迎え、法学部が65周年、高等司法研究科が10周年をそれぞれ迎えることになります。

青雲会は大学に、10周年(昭和39年5月)は桜の記念樹、20周年(昭和49年3月)は記念石「青雲」、30周年(昭和59年6月)はモニュメント「翔」、40周年は図書館に図書、50周年(平成16年7月)は絵画「黎明」をそれぞれ寄贈いたしました。



10周年「桜」

大きく育っています。



20周年「青雲」

伊予産の20トンの重さの大石です。
同窓会「青雲会」の名称の起源です。



30周年「翔」

二科会会員の故小山由寿先生制作の大ブロンズ像です。



50周年「黎明」

この絵画「黎明」は、12期の画家故疋田泰彦氏が制作され、法経研究棟1階ロビーに掲示されています。

青雲会事務局からのお知らせとお願い

●宛名印刷をご利用ください。

パソコンのシステム近代化に伴い、宛名印刷が出来るようになりました。皆様の同窓会開催案内等にご利用ください。(費用:無料)

事務局は、大阪大学豊中キャンパス(石橋)、大学院法学研究科棟2階にあります。午前9時30分～午後3時30分(11時30分～12時30分昼休み)に在室しています。会員の皆様のご連絡をお待ちしております。

TEL.06-6850-5198 青雲会事務局 黒田嘉次郎(18期)